



献上桃選果・箱詰式



極上の桃を厳選し、皇室へ献上

皇室に届ける献上桃の選果・箱詰式が7月25日、JAふくしま未来桑折総合支店で行われ、180個の桃が丁寧に箱詰めされました。

当日出荷されたあかつき約12万個を光センサー選果機に通し、糖度や大きさ、着色で1次選果した600個の中から、さらに献上桃にふさわしい桃を県職員やJA関係者らが厳選。数又清市組合長は「今年は適度な降雨もあり、生育状況がとても良い。平均糖度は13.3度と平年より高い水準となっており、高品質な桃をお届けできる」と喜びを噛みしめました。



献上桃30周年記念式典

30周年を祝う記念式典

献上桃30周年記念式典が8月26日、JAふくしま未来桑折総合支店で開かれました。式では、記念式典実行委員会の佐藤廣武委員長や高橋宣博町長、佐藤宏隆福島県副知事などがあいさつ。また、30年のあゆみを写真で紹介するなど、これまでの取り組みを振り返りました。祝賀会では、それぞれが思い出に花を咲かせ、盛大に30周年を祝いました。



voice 献上桃30周年を迎えて



ふくしま未来農業協同組合
代表理事組合長
数又 清市 さん

連続30年という長きに渡り献上桃として選ばれていること、大変光栄に思います。度重なる自然災害があった中、生産者のたゆまぬ努力や関係機関の迅速な支援により桃の品質が守られてきました。今後も、産地の発展はもとより、国内外へ桑折の桃が羽ばたいていけるよう尽力していきます。



伊達果実農業協同組合
代表理事組合長
佐藤 邦雄 さん

これまで、JAや生産者の皆さまとともに、栽培技術の向上に切磋琢磨してきた中で、30周年を迎えられたことは、桃をこよなく愛し、桃を栽培する仲間として感謝と敬意の気持ちでいっぱいです。今後も、何事にも皆さんと気持ちを一つにして、日本の桃産地を目指して精進していきます。

桃づくりにかける思い

江戸から昭和初期にかけて養蚕業が繁盛していた桑折町。しかし、時代の流れとともに養蚕業は衰退。代わりに、桑畑などを上手く利用した果樹栽培、特に桃の栽培が盛んになり、今では、町を支える産業の一つとなりました。

平成6年には、他の農協に先駆けて、町のJAに光センサー方式選別機械が導入され、高品質な桃の安定供給が見込まれることから、桑折の桃が献上桃に指定されました。以来、震災・原発事故や度重なる自然災害などの影響を受けながらも、一度も途切れることなく30年を迎えました。生産者をはじめ、多くの農業関係者らのたゆまぬ情熱と努力が、桑折の桃には受け継がれています。

時を越えて受け継がれる桑折の桃
30年を迎えた
献上桃
桑折の桃が献上桃に選ばれて今年で30年。記念式典や選果式、桃PR事業の様子をお伝えします。